

# ENGAWA

2012年10月

特集

## やらまいか精神に 注げ！東北魂



緋

日本

■ 浜松市民は東日本大震災で被災された皆さんを心から応援しています。

### 目次

#### ■特集

震災から一年7ヶ月が経過し、  
いまだ復興の兆しが見えない被  
災地。今回の震災からわたした  
ちは何を学び、これからどう行  
動していくのか？東北支援と平

行して、東海地震に備えた浜松で  
の取り組みを考えます。

#### ■エンガワトピックス

3月25日に大船渡市で行わ  
れた「元気！はままつやらま

かフェスタ in 大船渡」を紹  
介し、これからの市民レベル  
での取り組みを考えます。

#### ■Check!!

協働センターのお知らせ

## 特集 やらまいか精神に注げ！東北魂

**東日本大震災**

だれもが忘却することができない  
2011年3月11日。あれから1年半が過ぎた今年3月に、NPO法人地域づくりサポートネットに同行し、陸前高田市・大船渡市をレポートしました。

陸前高田市に降り立って目に入ってきたものは、基礎だけになつた駅舎や、かろうじて建っている鉄筋構造の建物。そして、かつては人々の暮らしを支え、まちの賑わいの一端を担っていたであろう

建物が、当時の姿をとどめることなく、高さ4mはある瓦礫の山を形成している光景でした。震災から一年半も経ったこのまちの現状を理解をするには、しばらく時間が必要でした。

東日本大震災では岩手、宮城、福島の三県へ、延べ100万人のボランティア（2012年5月現在）が支援活動を行ったといいます。ボランティアの皆さんには、恐怖と悲しみを一つひとつ拾い集め、多くの慈愛の心を紡んできたのだと

実感しました。

**その時浜松市民は**

震災後の昨年4月13日、浜松市は支援先を大船渡市に定め職員を派遣。現地のニーズを聞くなどし、正確な情報収集などに尽力されました。

当センターでは、震災により、浜松市などへの移住を余儀なくされている人たちを勇気づけるために、ステッカーを作成。ステッカーの売上で得た250万円を、被災地での支援活動を行うボランティア



この先には、  
力強い未来があると  
信じている。

だから、わたしたちは、  
ずっと忘れない。



バスなどに使っていただくために、浜松市社会福祉協議会に寄付をしました。

このステッカーは、多くの浜松市民のみならず、県西部地域の2万人を超える人々からの善意が示されたのです。もちろん、市民レベルでも支援物資の援助や、被災地でのボランティア活動、さらには、被災地から浜松市内で避難生活を送っている避難者への支援など多岐に渡り、その活動は今も継続されています。

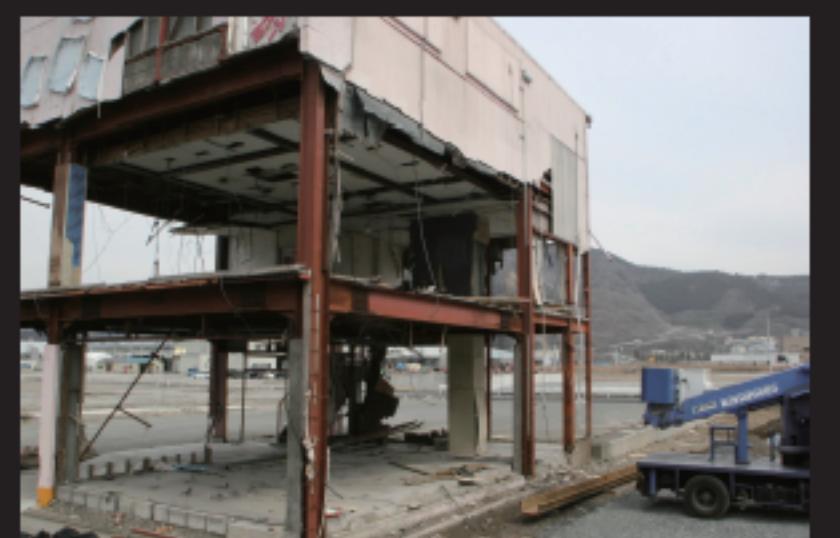
## 被災地の声

当センターも昨年4月には、浜松市を拠点とするスポーツアートサポートとうかいと、宮城県を中心に活動をしている、スポーツアートサポートみやぎとの協働事業として「メディアに流されていない被災地の声」と題した講演会を開催しました。内容は、スポーツアートサポートみやぎ代表である阿部寛行さんが、被災地の現状などを浜松市民に訴えかけるものでした。

その中で、発災後に自衛隊、行

政の他に、大きな力を發揮したのは市民活動団体であったことを学びました。特に、行政の手が行き届きにくい、きめ細かい支援活動に力を発揮したというのです。

また、今年1月には、NPO法人遠野まごころネット副理事長である菊池新一さんを招き、講演会を開催。菊池さんは、被災地で行政と市民のつなぎ役として、苦労された実体験をうかがい、震災前から準備しなければならない、様々な問題点を学びました。



## 特集 やらまいか精神に注げ！東北魂

そして、学んだ。  
今こそ、注ぎ込もう  
やらまいか精神に  
東北魂を！

**浜松で、癒されたい**

昨年7月には、宮城・福島で被災した親子30名を、1週間浜松に迎え、「心の耕しツアーハイウェイ」を題し、震災で傷ついた人々の心を癒すための事業も実施しました。このツアーも、スポーツアート・サポートみやぎ代表の阿部さんからの要請に、スポーツアートサポートとうかいと、中学生で構成されるスマイルリングリーン静岡が中心となり、ツアーを実現させたものです。

このツアーは、市内の企業や市民活動団体、市民の善意により実現した、まさに協働事業でした。

**自然災害**

いつ起こるかわからない、自然

災害。時には、人間の想像をはるかに超えた力で襲いかかる自然の力。今回の震災では死者・行方不明者あわせて、約1万9千人ものぼる(2012年3月11日現在)尊い命が奪われました。

このような自然災害は東北のみならず、日本各地で起きる可能性があることは長年、東海地震の危険性が叫ばれてきた浜松市民にとっては周知の事実です。わたしたちは1万9千にものぼる尊い命を無駄にしないためにも、東北支援と平行して、自分たちの地域で起こるであろう災害にも、さらに意識を高め、東北から学んだ備えをしておく必要があるのではないかでしょうか。

**精霊のために**

今回の災害では、痴呆などを抱える高齢者は、行政が指定した避難場所へ避難することなく、震災前から利用をしていた、高齢者施設等に避難していたといいます。また、知的障がいのある人も同様に、震災前から利用をしていた、更生施設等に避難していたともいいます。

背景には、同居する家族が、外の避難者に迷惑をかけてしまうのではないかという理由で、指定の避難場所に避難しなかった人が多かったのです。また、実際に障がいのある方から話を聞くと、『わたしは、介助が必要なので、避難所に行けば周りの方に迷惑をかけ



# 2012年9月24日、災害協定締結



てしまう。避難所には行くことができなかった』と話した人もいらっしゃいました。

また HIV 感染者に代表されるように、いかなる状況であっても投薬の継続を必要とする人たちは、医療機関に薬剤が集積されても、薬の配給は困難を極めたといいます。患者の個人情報の保護が、かえって投薬を必要とする人たちを、特定できない状況に追い込んでいたのです。

これらの東北で起きた問題は、現状のままでは、どの地域においても同様に起こりうることです。東北の人たちの経験から学んだこ

とを、わたしたちは、日頃から意識し、準備しておくことが必要ではないでしょうか。

そこで、災害が起きたときに、市民活動を行なっている NPO 法人が、避難所に避難できない、障がいのある人や長寿者などの支援を、市の職員同様にできる仕組みを構築しておくことが大切であると考えました。当センターが主体となり、NPO 法人による災害支援連携会議を設立。9月 24 日には、浜松市との間で災害協定を締結することができました。

市と NPO 法人との間で災害協定が結ばれるのは、全国でも類のな

い試み。しかし、浜松市との災害協定の締結が、目的ではありません。自助、共助による市民減災力を高めることが、連携会議の目標なのです。

そのためには、より多くの NPO 法人の参加が必要です。さらに、NPO 法人自らが、支援物資などを確保する必要があります。そして、物資の確保には、東北支援と同様にみなさんや、企業からのご支援が必要なのです。

市民協働による減災力の向上こそ、東北の人たちから学んだこと。みなさんも、協働事業の一員になってみませんか。

# エンガワトピックス



## 元気！浜松やらまいか



3月25日に、大船渡市にあるリアスホールで行われた「元気！浜松やらまいかフェスタ in 大船渡」が開催されました。このイベントは、大船渡市は浜松市ののみなさんへの恩返しとして、浜松市は大船渡市のみなさんへ元気を送り届けるために両市が主催。浜松市からは市民活動団体、企業、行政職員など総勢200名を超える人がイベントに携わり、市民協働で、大船渡市民に元気を送りました。

開会式では、戸田大船渡市があいさつされ、何度も何度も「浜松ありがとう」のことばを述べていたのが印象的でした。同席した、浜松市民も、戸田市長のことばを、かみしめるように聞いていました。



仮設住居者の手芸展示コーナー前で、記念撮影をするNPO法人地域づくりサポートネットのみなさん

イベントでは、浜松廻の絵付教室や、うなぎのつかみ取り大会、バンド演奏や、浜松映画の上映会、大船渡市の特産品販売なども行われました。また、静岡県から、仮設住居者の支援を行っている、NPO法人地域づくりサポートネットは、仮設住居者が一つ一つ手編みをした手芸品展示や、浜松・大船渡両市民からのありがとうパネルメッセージ展も行いました。



あいさつをする戸田 大船渡市長



Hamamatsu & Otawara  
festa  
nstruction  
& matc

# フェスタ in 大船渡



ピエロさんはちびっ子に大人気。

ミュージックステージでは、サンバなども披露されました。さらに浜松出身のヒップホップユニット Jam9（ジャムナイン）が登場。彼らの演奏が始まると、会場の雰囲気は一気に最高潮に達しました。そして最後は、会場内の、浜松・大船渡の両市民がステージ上に登り、出演者といっしょに『上を向いて歩こう』を歌い、お互いの絆を深め合いました。

市が行った、大規模なイベントは市民団体が実施したり、たびたび行ったりすることは大変です。けれども、わたしたちの個々のつながりは、大きなイベントに匹敵するほどの励ましになるはずです。

絆は強く、緩やかにつながり続ける。自分のできることから少しづつ。それこそが協働！あなたも、大船渡に協働の力を届けてみませんか。



凧の絵付け教室も大人気



ありがとうメッセージを見つめるみなさん



うなぎのつかみ取りに懸戦苦闘する来場者

# Check!



URL <http://www.machien-hamamatsu.jp/>



E-mail [kyoudou@machien-hamamatsu.jp](mailto:kyoudou@machien-hamamatsu.jp)



発行

浜松市市民協働センター

☎430-0929

浜松市中区中央一丁目13-3

☎053-457-2616

FAX053-457-2617

## 今すぐ市民活動団体の認定を!

市民活動団体とは、次の活動を行う団体をいいます。

市民活動(市民及び事業者が、自主的に参加して自発的に行う、営利を目的としない活動であって、社会貢献性を持つもの)を行うことを主たる目的とする団体であって、継続性を持つもの。

## 認定を受けた団体の特典

- 施設使用料、備品使用料が一般の半額
- 一般より1ヶ月早く、研修室の予約が可能
- 市民活動団体ライブラリーに団体紹介ボックスを設置
- 1階サロンで最大1ヶ月間、団体紹介の展示が可能に(先着順)
- 助成金情報や講習会情報など、お知らせメールを随時配信
- 団体のイベント情報などを、センターが拡散
- センター情報誌ENGAWAをお届け

## 申し込み受付

### ★研修室

- 認定された市民活動団体…前3月の初日から予約受付
- 一般……………前2月の初日から予約受付
- ★ギャラリー……………前12月の初日から予約受付

## アクセス(交通)

- 交通(公共交通機関をご利用ください。)
  - 鉄道
    - JR浜松駅から徒歩8分
    - 遠州鉄道西鹿島線「遠州病院駅」下車徒歩2分
  - バス
    - 遠州鉄道「県総合庁舎」下車徒歩1分
    - △バスターミナル10・11番乗車  
く・る・る→まちなか西ループ  
「県総合庁舎」下車徒歩1分
    - △バスターミナル14番乗車

※施設専用の駐車場はありません。

※お車でお越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。また、施設利用に伴う、駐車場の割引はありません。(障がいのある方などを除く。)

## メイン事業

夢倉造人

DREAM CREATOR

中間支援のできる人材を、実践を通して育成する講座です。一つのエリアを限定し、その地域と、そこに住む人や団体との交流を通して、地元住民が見落としている地域の魅力を探ります。

高受講率者は、市民協働センターのアドバイザーに認定します。



市民活動団体を中心に、新しい協働相手を見つけるための集会です。行政や企業、市民活動団体などが、対等の立場で、協働する相手を見つけるために、アイデアを発表しあう、プレゼンテーションフォーラムが、最大のイベントです。

## センターでは、このようなことができます。

- ・市民活動についての打ち合わせ
- ・活動成果などの発表や資料の閲覧
- ・市民活動や市民協働についての相談
- ・外のグループとの交流や研修会の開催
- ・印刷機を利用してチラシ等の作成

## バナー広告掲載企業 募集中!!

掲載料など詳しい事は、市民協働センターにお問い合わせください。